リーダーになる！

実践する上司学。
嶋津良智による、よきリーダー、上司になるための必読コラム。

第31回 朝イチで出社し最後に帰る

朝一番に出社し最後に帰るメリットは、部下からの信頼を得ると同時に、部下の仕事ぶりを観察できる点です。

上司になりたての人というのは、まだ何の信頼も得られていない場合が多いことでしょう。部下にしてみれば、新米上司に対して「あの上司は、どんな人なんだろう」「信頼できる人なのかな」と見定めようとしている段階です。

そんなときには、自分に対する信頼を少しでも早く勝ち取るために、自分ができることをとにかくやってみるという姿勢が大切です。

そこでまず、朝一番に仕事場・事務所へ行き、最後に帰るということを徹底してみましょう。「そんな、くだらないこと…」と思う人もいるかもしれませんが、実際に誰よりも早く出社して、最後に帰るということを継続してみてください。やってみると、実に大変なことか分かるはずです。

そんな上司の姿を見た部下たちは「あの人、いつも一番に来て、わたしたちを迎えてくれるね」とか「わたしたちが帰るときまで、必ず会社にいるね」などと言うようになってきます。

自分が部下だったときのことを思い出してください。仕事に追われ、終電近くまで残業するような日が続いたとき、必ず上司が残ってくれて、「毎日、遅くまでたいへんだね」と声を掛けてくれたら、どんな気持ちになったでしょうか。また、日本のケースですが、「だいぶ遅くなったから腹減ったろ。よかったら飯でも食って帰らないか？」と声を掛けられ、ご飯を食べながら普段会社でしないような話をしていたらどうでしょう。その上司に対する信頼度や親密度がアップしたのではないでしょうか。

長時間いるメリット 余裕を持って部下を観察

また、朝一番に事務所へ行き、最後に帰るということには、もう一つメリットがあります。

朝と夜、部下がいない時間帯に自分の仕事をするようにすれば、部下がいるときには、部下と向き合う時間を多く取ることができます。部下と会話をすることもできるでしょうし、部下がどのように仕事をしているのかを見ることも可能となります。

上司が自分の仕事に没頭するのではなく、余裕を持って、部下のことを観察することができれば、部下の表情や仕事ぶりなどから、困っているポイントを見つけ出したり、仕事配分が正しいのかどうかなどを確認することもできます。いつも遅くまで残っている部下がいたら、上司として、どうしたら効率よく仕事をさせられるかも考えてみるといいでしょう。

（『上司のルール』より転載）

嶋津良智■リーダーズアカデミー学長。早稲田大学講師。大学卒業後、IT系ベンチャー企業に入社、トップセールスマンとなり、24歳で最年少営業部長に就任。1993年に独立、起業。94年に共同で情報通信機器販売の新会社を設立。2004年にIPOを果たす。05年に教育機関、「リーダーズアカデミー」を設立。